

歴史文化館ニュース 第13号

2015. 6. 10

「梶山歴史文化館 山添展示室」オープンにあたって

梶山歴史文化館館長 梶山 美恵子

山添の中高キャンパスの一室に平成27年5月14日「山添展示室」をオープンしました。



オープンまでのいきさつ

山添の中高キャンパスには、校舎の全面改築が完了した2006年当時から、「メモリアルルーム」と名付けた部屋が用意されていました。そこには、クラブ活動のトロフィー類を展示した棚が置かれていましたが、空きスペースはこれまで物置場として利用されてきました。

2009年に開館した星が丘キャンパスの「梶山歴史文化館」は、山添キャンパスの生徒・児童にも、遠足の一環や土曜講座、総合学習などで利用されてきましたが、日常的には来館が困難でした。そこで、山添キャンパスの「メモリアルルーム」をその名に相応しい部屋として生かせないかという考えのもと、2011年頃から準備を開始しました。2012年には高中同窓会から七夕バザーの収益金の寄付もいただき、早期の開室が期待されていましたが、様々な事情で、ようやく今年度「梶山歴史文化館 山添展示室」として開室の運びとなりました。

「山添展示室」の特徴

特徴の一つは、学園全体の発展の歴史と並んで、山添キャンパスの各学校（幼・小・中・高）の教育活動の歴史に焦点を置いたこと、もう一つは学園の歴史を地域の歴史（名古屋・覚王山）のなかで見られるようにしたこと。小さな限られた空間ではありますが、広く歴史を振り返りながら、学園・各学校、そして地域の今と未来を考える場として利用していただけるのではないかと思います。

壁面の展示

壁面の2つの歴史年表（学園・地域）には、写真や図版を多く取り入れ、全面印刷ビニールクロス張りの方を採用し、面積を有効に活用しました。また窓側も壁面として利用するために、ロールスクリーン方式を採用し、4本のロールスクリーンには「人間橋・人間になろう」「校章・金剛鐘」「糸菊」「制服」について掲げました。

展示ケース

前述の棚は、中高のクラブ活動の歴史を伝える場所としてそのまま生かしました。ガラスケースには学園・各学校にまつわる次のような物を展示しました。

- ・学園周年記念品
- ・山添キャンパス初代校舎模型（生活科学部学生制作）
- ・明治時代の裁縫教授資料と裁縫雛形作品
- ・瓶細工による海老茶灯袴（生活科学部学生制作）
- ・昭和初期地理授業の自作石膏模型教材



- ・旧家政学部時代の繊維と食材の材料教材
- ・昭和時代の栢山小学校の教具
- ・昭和時代の謄写版、タイプライター
- ・各時代の生徒の思い出の品々や授業での制作物
- ・生徒会出版物
- ・皇太子来校記念品 など

視聴覚コーナー

タブレットでは、タッチパネルで、栢山歴史文化館のホームページを見ることが出来ます。館の3つの室の案内をはじめ、栢山女学園の詳しい歴史、所蔵品やコレクションの画像データベース、「学園の教育をたどることば集」（平成23年栢山歴史文化館発行）の全文、学園誌「糸菊」データベース、裁縫雛形のデータベースなどが見られます。

液晶テレビでは学園の歴史を8つのテーマで編集した画像（文化情報学部学生制作）を見ることが出来ます。

マガジンラック

昭和時代からの中高の教育活動（学校行事・生徒会活動など）の資料や、各学校の刊行物・印刷物を手にとって見ることが出来ます。

「山添展示室」は開校日には常時開室していますので、キャンパスの皆さんやご父母・同窓生、学園に関係する方々にいつでも来室していただけます。お気軽に立ち寄って見てください。お待ちしております。

「栢山歴史文化館 山添展示室」開室時間

学校の休校日を除く毎日、朝8時20分から

午後5時まで（土曜日は12時まで）

学園外的一般の方は、事前にご連絡の上、来室時には身分を証明するものをご提示ください。

連絡先 栢山歴史文化館担当者

TEL：052-781-1186

中日新聞提供（2015年5月24日（日））→



【山添展示室 ご感想】

山添展示室にお越しいただいた卒業生の方や団体の方々から、以下のように多くの感想をいただきました。

＜卒業生からのご感想＞

- ・限られたスペースに本当にレイアウトもすべてコンパクトにまとめられ写真も大きくて見やすかったです。
- ・高中懇親会のバザーを準備したことをなつかしく思い出しました。少しばかりですがお役に立てて形となったことをうれしく思います。クラスの友達にお知らせしたいと思います。
- ・100年前以来の歴史、よくも揃っていると感心しました。昭和の戦前、在学当時のことを思い出されました。
- ・タイムスリップして学生時代に一足跳び。仕上げるまでには大変なご苦労がおりだったと思います。
- ・やはり年表と写真のコラボは、とてもわかりやすいです。
- ・見学しながら、栢山の生徒だった頃のことをとても懐かしく思い出しました。栢山小学校に男子がいた時期があったなんて初めて知りました！ こういう部屋はあった方がいいと思います。
- ・高校の頃のことだけでなく、ビデオに大学の同級生が出ていて、大学のことも懐かしく思い出せました。来室者の記帳があると、～さんも見学したんだ、ということがわかっていいかな。

＜団体様からのご感想＞

- ・覚王山にお住みの方に見ていただければ、もっと町を好きになると思います。（覚王山商店街振興組合）
- ・商店街の方にも見ていただいて、地域一体になる様にながらびます。（覚王山商店街振興組合）
- ・田代土地区画整理の図（絵）は、たいへん貴重です。（ちくさ・文化の里づくりの会）
- ・年表がわかりやすく展示してあり、見応えがあつてすばらしいと思いました。（千種区役所まちづくり推進室）

【山添展示室 展示品紹介】

今回の山添展示室開室にあたり、多くの方から様々な展示品をご寄贈いただきました。ここでは、山添展示室の展示品の一部を紹介します。

○「山添キャンパス初代校舎復元模型」

生活科学部生活環境デザイン学科出身の浅見彩加（平成26年度卒業）さんが、滝本研究室で卒業制作として取り組んだものです。残された写真と、星が丘キャンパスにある金剛塔のレプリカを参考に、できる限り忠実に復元しました。



○「美術の授業での制作物：時計」1992年（平成4年）中学2年美術の授業にて制作

この時計は1992年、中学2年生の美術の授業で制作したものです。下絵を描き終えてみると予想以上に細かい作業になることに戸惑いを覚えました。気がいった図柄ができたことと、せっかく作るなら丁寧に仕上げたいという思いで彫り上げました。彫り進めながら、配色をあこれ想像するのが楽しかったです。また完成するのをワクワクしながら時間が経つのも忘れて夢中になって作業したことも覚えています。授業時間内には終わらなかったのですが、居残りで仕上げたことも今となっては良い思い出です。（小川奈保子）



○「浴衣」1974年（昭和49年）中学校3年生時に、家庭科授業で制作

この「浴衣」は、本学中学校3年の家庭科の授業で制作しました。当時、家庭科の授業では、花びん敷等の小物類から、スカート・ワンピース・パジャマ、そして、この浴衣等々、とてもたくさんの物を制作しました。今の子供達のような授業用キットなどは全くありません。ハترون紙で、型紙から作り、本格的に縫いました。ミシンは使わず、全て手縫いです！自分で用意した一反の反物から作るのも、最初は心配でした。和裁のできる大きい机のある「家庭科室」で作った記憶です。慣れない和裁（特に襟など）で大変でしたが、先生もとても丁寧に教えてくださり、楽しく作ることができました。さすが前身が裁縫女学校なんだな、と感じる一片でもあります。この浴衣を着て「矢田川花火大会」に行ったのも思い出です。その他思い出の一杯詰まった山添での楽しい学生生活は、私の歴史でもあります。（原田美佐子）



○「縫い方の基礎」1972年（昭和47年）中学校1年生時の家庭科の授業で制作

家庭科の授業で「縫い方の基礎」を習ったのは、まだ中学校に入りたての頃。それは放課に友だち数人と馬乗りをして「この学校始まって以来です」と先生に頭を抱えさせるほどお転婆だった私に訪れた初めての試練でした。

はめ慣れない指ぬき、使い慣れない針、糸と格闘し、先生の説明に必死で頑張ったまつり縫い、かがり縫い、返し縫い等。毎回の授業がそれはそれは憂鬱だったことを今も覚えています。ところがどうでしょう。その拙い作品がその後何十年と裁縫箱が変わってもいつも大切に仕舞われ、何回も何回も裁縫が苦手な私を助けてくれたのです。そして今、ご縁あつて学校に寄贈させて頂くことができ、なんだか少し恥ずかしいような、でもとても嬉しい気持ちです。

（浅井さくら）



【前畑秀子生誕100年展を終えて】

昨年（平成27年）、10月3日に特別展を開始し、今年の5月29日に終了するまでの約8ヶ月の間、栢山歴史文化館には学園外からも様々な方が来館されました。前畑秀子のご親族、寝食を共に過ごした高等女学校時代の水泳部OG、中学・高校の水泳部のOG、水泳教室で指導を受けた方々、愛知水泳連盟の方々、出身地から和歌山県橋本市の市長始め関係者の方々、水泳の試合で競った他の学校の水泳部のOG（99歳）、家族ぐるみでお付き合いをされていた方々など、前畑秀子との関わりのある方々が大勢来館されました。

さらに、中日新聞、朝日新聞、毎日新聞、名古屋テレビなどの取材、橋本まちかど博物館館長、和歌山市立博物館学芸員などによる調査、出版社などへの資料の提供など様々な出来事がありました。

今回、前畑秀子のご親族の方よりメッセージをお寄せいただきましたので、ここに紹介させていただきます。



前畑秀子生誕百年展に寄せて

（杉浦昭義 東京在住）

前畑秀子は、私の叔母に当たる。四月末に従弟から「前畑おぼさんの母校・栢山女学園の歴史文化館で、生誕百年展が行なわれているよ」との連絡を受けた。

五月の連休明けに栢山女学園のすぐ近くに住んでいる七十数年来の幼馴染の夫妻と連れだって展示場に向かった。たまたま、栢山歴史文化館長の栢山美恵子さまにお目に掛かることが出来、百年展について数々ご説明いただけたのは幸いであった。

前畑秀子の幼少時から、八十歳に至る生涯の活躍の歴史が、系統的に何百点もの資料（金メダルはもちろん、オリンピックで使った水着の写真、決勝の前夜に克明に書かれた直筆の日記などなど）が収集されていて、そのご尽力に頭が下がった。広い展示室では、ドイツのゲネンゲル選手との一騎打ちのビデオテープが映され、あの「前畑がんばれ！勝った勝った！」と絶叫し続けた河西アナウンサーの実況が流れる中で展示物を見ていると鳥肌が立った。「頑張れ」は、前畑秀子の枕詞であり、「一に努力、二に努力、三に努力」は、叔母のモットーであった。戦前においては「前畑がんばれ」、戦後においては「フジヤマのトビウオ・古橋広之進」が、日本国民に勇気と感動を与えたことは忘れられない。

来年のリオ・オリンピック、さらに2020年の東京オリンピックで“水泳大国ニッポン”の再現を願わずにはいられない。親族を代表して、このたびの催しに厚くお礼申し上げます。有り難うございました。

【寄贈品紹介】



- 雑誌「日録 20 世紀 1936（昭和 11 年）／講談社」（岡田昌弘氏寄贈）
- 栢山大学新聞（第 10 号～39 号）（下村茂美氏寄贈）
- 小学校制服上下（再現）／ローズピンク（松永株式会社寄贈）
- 授業制作物／タイトル：時計（小川奈保子氏寄贈）○学園グッズ、懐中時計（栢山正弘氏寄贈）
- 山添キャンパス初代校舎模型（浅見彩加氏寄贈）○油絵「ひまわり」（武政ヒロミ氏寄贈）
- 授業制作物／We are the world（山口乃愛氏寄贈）○栢山女学園絵葉書原画（三富晃弘氏寄贈）
- 授業制作物／栢ニコちゃん貼り絵（永野百世氏寄贈）
- 書籍「待宵草」「あいち歴史教育 No 17」（中村太貴生氏寄贈）
- スライドフィルム／前畑秀子関係（福島健次氏寄贈）

【編集後記】

今年は栢山女学園創立 110 周年にあたります。この記念すべき年に「山添展示室」を開館する運びとなり、オープンに際してご協力いただいた皆様には、心からお礼申し上げます。是非多くの方にお越しいただき、学園や地域の歴史に触れていただきたいと思います。

歴史文化館ニュース 第 13 号

発行日 2015 年（平成 27 年）6 月 10 日

編集・発行 栢山歴史文化館

名古屋市千種区星が丘元町 17 番 3 号

TEL 052（781）1186（代）

052（781）4590（直）

編集担当者 栢山美恵子 村瀬輝恭 大喜多優香